

M A T O I

まとい おおいた

O I T A



Vol.2

掲げる まとい とどけ 火消の心

Contents

- 実は私も消防団員です
- 纏の新調と豊後八纏會の結成
- はばたけ！かた昼消防団
- 消防団NEWS
～消防団の「取組」、横綱と纏が対面

実は私も消防団員です

本神崎分団 副分団長

小野 真一さん
自動車整備業(入団25年目)



消防団がどういった活動を行っているのかわらずに入団したのですが、消火活動だけでなく、地域を支えるためのボランティアなど広く活動していることを知り感銘を受けました。

また、行方不明者を無事に発見し自分事のように嬉しかったことなど、地域社会貢献という充実感を持てることも消防団の醍醐味です。防火防災で困ったことがあれば、是非地域の消防団員を頼ってください。



子ども時代は、いつも消防団員のところへ遊びに行っていたので、消防団が地域に与える良い影響を直感的に理解していました。
引越先で入団したのも、地域の一員として、より良い地域を作り、次世代に引き継いでいけるようにしたためです。
また、趣味の神楽やゴルフ、仕事の面でも他地域の団員と知り合うことができ、ネットワークが広がることも消防団の魅力です。

賀来分団 副分団長

下川 寿雄さん
電設業(入団24年目)



明治分団 分団長

荻野 晃一さん
建設業(入団19年目)



コミュニケーションを取るのが好きで、誰かのために、地域のためにという意識をもって自治会や公民館の役員なども経験し、地域の方々と繋がりを作ってきました。
災害の発生は予測できません。いざという時に皆が協力して動ける強い地域を作るために、分団長として高い意識をもち、防火・防災意識の啓発や話し合いを行っています。

明治分団 団員

荻野 和紗さん
金融業(入団2年目)



父の地域に対する姿勢や自分自身が消防団員として地域行事に参加する中で、地域の方々と繋がりを持つことの大切さを教わりました。

また、消防団は、防火・防災についての知識を身に付け、身近な人々を守ることが出来るだけでなく、世代や職業を越えた人間関係を広く築くことができるので、若い世代にこそお勧めしたい組織です。



火災で夜通し警戒していた時に、住民の方から暖かいお茶とお礼の言葉を頂いたことや、ポンプ操法の大会に出場し、皆で一つの目標に向かって汗をかけたことなど忘れることができない思い出がたくさんあります。
現在は、地域の災害被害を少しでも軽減できるよう、避難が困難なお年寄りがどこに住んでいるかなどを把握するように努めています。

大在東分団 班長

内田 雄二さん
建設業(入団24年目)



纏

について

纏（まとい）は、江戸時代にまちを守った町火消（まちびけし）が用いた火消道具のひとつです。火事現場に駆け付けた各町の纏持ちは、我先にと纏を風下の屋根上に掲げ、火消達を鼓舞したと言われてい

ます。
また、纏は消防の象徴としてだけでなく、「まとまる」や「高く振り上げる」ことから縁起物としても用いられています。

大分市消防団では、令和元年に纏を新調し復活させると同時に、纏持ちとなる団員を選抜して「豊後八纏會（ぶんごはってんかい）」を結成し、災害に対して地域が団結して強い防災力を作っていくための旗印となるよう、纏振りを中心とした活動を行っています。



大分エリア(第一方面隊)



「杏葉紋」
大友家が用いた家紋から
宗麟公を表現

鶴崎エリア(第二方面隊)



「七輪のまち」
管轄七地域が掲げる「七輪のよ
うに暖かなまち」を七葉で表現

大南エリア(第三方面隊)



「合戦・兜」
地域に所縁の深い長宗我
部家兜を表現

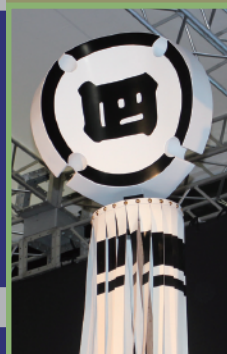
野津原エリア(第八方面隊)



「平和と無火災」
八方位を表す八角で、「地域全
体を守る」という想いを表現



植田エリア(第四方面隊)



「地域の和」
管轄四地域の和を黒緑の
輪で表現

佐賀関エリア(第七方面隊)



「波・灯台・日輪」
地域を彩る三要素を組み
合わせ豊後水道を表現

坂ノ市エリア(第六方面隊)



「前方後円墳」
地域住民が憩う亀塚古墳。永続
的に安全で憩える地域を表現

大在エリア(第五方面隊)



「職人」
職人の象徴である鑿（のみ）
でプロ意識を表現

はばたけ! かた昼消防団 ～結成20年を迎え～

賀来地区在住の横山英行さん（消防団OB：元第4方面隊長）の発案で、平成12年に結成された「かた昼消防団」が、今年で20周年を迎え、11月3日、秋晴れの日曜日「かた昼」の時間を使って住民も参加した訓練を行いました。かた昼消防団は、地域の消防団員が消防・防災に関する体験を通じて子どもに防災教育を行うもので、消防車に同乗して行う防火広報や放水体験、応急救護、炊出し訓練など、生きる力を伸ばすことに繋がる経験ができるプログラムであり、住民や地域を作る様々な団体が参加すれば防災の輪が形成され地域防災力が強くなります。

賀来地区では、20年間活動を継続したことで、若い世代にも防災意識が根付いています。



かた昼消防団経験者のいま



賀来分団
安部 真之助さん
入団5年目

かた昼は、中学生の時に友達と参加し、応急救命講習の内容や親しみやすい消防団員の姿が印象に残っています。

その後、社会人となり消防団に誘われた際も、面識がある団員が多かったのでスムーズに入団できました。

今では、自分が消防団員として子どもに背中を見せる立場になったので、次の世代に引き継いでいけるように取り組んでいきたいと考えています。



消防団と消防局では、かた昼消防団の更なる普及に向けた取り組みを行っていますので、未実施地域の皆様はご検討をお願いします。

消防団NEWS

消防団の「取組」、横綱と纏が対面しました!

令和元年12月6日に昭和電工武道スポーツセンターで実施された「冬巡業大相撲大分場所」において、公益財団法人日本相撲協会の皆様、勧進元として大分場所開催に御尽力された(株)F&Tホールディングスの小野様に社会貢献活動の一環としてご協力をいただき、厳しい相撲の世界で長年にわたり横綱を務める白鵬関、鶴竜関と纏の対面を実現することができました。



纏と相撲は伝統や力強さの点でイメージが近いだけでなく、纏は「馬簾（ばれん）の動きで火の粉を振り払う」、横綱は「四股で大地を清め邪気を払う」という点でも防火・防災と関連付けることが出来ます。

消防団としても、今回の対面を経て纏の持つ象徴的な意味合いが深まったと捉え、纏を中心により一層団結を強め、各地域で住民が安心して安全に暮らせるよう取り組んでいくこととしています。

見つける 新しい自分 大分市消防団員募集中!

お問い合わせは 大分市消防局総務課 TEL:097-532-2188